

No.2 多発しているトラック - 交通事故（道路）の死亡災害事例（2021年）

2021年発生月	発生時	死亡災害事例	業種 (小) コード	起因物 (小) コード	事故の型 コード	労働者 規模
12	10～12	A重油約1800リットルを配送するため、下り勾配約5度の直線道路を走行中、走行車線左側の縁石を超え道路脇の立木に激突した。	80109	221	17	10～29
12	10～12	災害発生前日21時台に出社し、点呼後に大型貨物自動車に荷物を積み込んで車道を走行中、トンネルを出て80m先の本線上に停車していた大型トレーラーに追突したものの。	40301	221	17	30～49
12	22～24	被災者は道路補修工事の現場の施工写真を道路上で撮影中に、後方から貨物自動車にはねられたもの。	30106	221	17	10～29
12	12～14	自動車専用道路パーキング入口付近において、路面工事のための車線規制をし、規制区域内にて設置した規制材の点検作業をしていたところ、規制区域内に進入してきた一般トラック（20t超）に轢かれた。	170201	221	17	100～299
11	22～24	被災者は、配送先にトラックで荷を運んでいた。本件災害の約30分前に別のトラックと接触事故を起こし、路肩にトラックを止め、相手方ドライバーと車外で話をしていたところ、後ろから走行してきた、また別のトラックが停車していたトラックに追突し、被災者はトラックとガードロープに体を挟まれたもの。	40301	221	17	10～29
11	0～	事業場から配送先に向かう途中、国道にて、被災者が前方の車両を追い越そうと対向車線にはみ出したところ、対向車線を走っていた	40301	221	17	100～

	2	トラックと正面から激突したものの。				299
11	0 ～ 2	被災者はトラックを運転し、国道を走行中、対向車線からはみ出してきたトラックと正面から激突したものの。	40301	221	17	100 ～ 299
11	8 ～ 10	交差点手前にて、被災者の運転する2トントラックが信号待ちをする車列に衝突し、多発外傷により被災者が死亡したものの。ドライブレコーダーの記録によれば、衝突時、被災者の運転するトラックは時速50kmに達しており、ブレーキが踏まれた記録はなかった。	40301	221	17	10 ～ 29
11	0 ～ 2	被災者は、会社所有の2トントラックで、国道を走行しているとき、対向車の1トンワンボックスと正面衝突した。正面衝突後、当該トラックは、路肩の休耕田（4メートル位下）に転落した。当該災害により、被災者は、頭部損傷を負い死亡した。	40301	221	17	1～ 9
10	2 ～ 4	2トン車でスーパーのルート配送を行っていた被災者が信号待ちをしていたトレーラーに追突し死亡したものの。	40301	221	17	10 ～ 29
10	16 ～ 18	被災者を含めた警備員2名により、国道に隣接する敷地に入出入りする大型ダンプの交通誘導業務を行っていた。大型ダンプを国道から同敷地に進入させるため、被災者が国道を走行してきた軽トラックに停止を求めたが、停止しなかったため、被災者が同軽トラックにはねられたもの。	170201	221	17	50 ～ 99
10	12 ～ 14	傾斜8度の坂道で、セーフティローダーダンプ（荷台が後ろにスライドし後端が接地する車載・土砂兼用ダンプ）にドラグショベルを自走積み直後、無人で逸走（下り坂を前進）し、約37m先のフェンスを突き破り、道路下に1.2m落ち横転した。逸走車の荷台を車外で操作していた被災者は、停止のため追いかけて、逸走車とフェンスとの間にはさまれた。ドラグショベル運転者（一人親方）は逸走開始時に飛び降り休業1か月の足骨折。	30106	221	17	10 ～ 29
		被災者は、車線規制をして高速道路を補修する工事の警備業務およ				

10	4 ～ 6	び車線規制等の標識を撤去する作業を担当していた。災害発生時、走行車線を規制せずに、工事用車両3台を路側帯に停車させて標識撤去作業を行っていた。被災者は走行車線にはみ出して立った状態で、3台のうち中央に停車させた工事用車両の荷台に標識を固縛する作業を行っていたところ、後方から走行車線を走行してきた12tトラックに激突されて死亡した。	170201	221	17	100 ～ 299
10	4 ～ 6	国道を走行していた被災者の運転する5トントラックが、カーブで横転、ガードレールに激突し死亡した。	40301	221	17	10 ～ 29
10	2 ～ 4	駅構内での作業を終了し、終了点呼を終えて、社員寮へ社有車のトラック（2tダンプ）で被災者2名が帰っていた。国道を東進していたが、交差点付近にあるガソリンスタンドの屋根支柱に衝突し、2名とも死亡した。	30104	221	17	10 ～ 29
10	2 ～ 4	駅構内での作業を終了し、終了点呼を終えて、社員寮へ社有車のトラック（2tダンプ）で被災者2名が帰っていた。国道を東進していたが、交差点付近にあるガソリンスタンドの屋根支柱に衝突し、2名とも死亡した。	30104	221	17	10 ～ 29
10	14 ～ 16	高速道路上の路肩で被災労働者が道路のスノーポールを設置する作業をしていたところ、路肩にはみ出して走行してきたトラックに撥ねられたもの。	30106	221	17	100 ～ 299
9	12 ～ 14	被災者は材料購入のため片側1車線の車道上に軽四輪自動車（以下「軽トラック」という。）を南側に向けて駐車し、軽トラック荷台西側に立っていたところ、北側から直進してきた4tトラックの運転手が前方不注意により被災者の発見が遅れ、軽トラック後方に激突し、被災者がはねられたもの。	30203	221	17	10 ～ 29
9	14 ～	被災者は現場作業終了後、傾斜約12度の坂道に停車させていた軽トラックに1人で乗車した後、同軽トラックは、徐々に速度を上げながら、減速することなく坂道を約75m下り、道路を横断して直	30309	221	17	1～

	16	進し、バス転回所へ進入後、約16m先の鉄柱に正面から激突した もの。被災者は上半身を強打し、心破裂により死亡した。				9
9	14 ～ 16	高速道路上の多重衝突事故で、衝突されたトラックの運転手が死亡 したもの。製品配送の帰社途中の事故。	11209	221	17	50 ～ 99
9	10 ～ 12	醤油9tを積載したタンクローリー車で配送先に向かっていて被災 者は、高速自動車道で側壁に衝突し、その際、被災者は頭部等を強 く打ち約1時間45分後に死亡が確認された。同乗者はいない。事 故の際、運転席及び車体下部は高架上（道路）にとどまり、タンク 部分は高架上から下方の県道と市道の交差点近くに落下した。落下 による人的被害はなし。	40301	221	17	1～ 9
8	2 ～ 4	被災者は運送業のトラックドライバー。雑貨を積んだ最大積載量1 3tトラックで配送先に向かって高速道路を走行中、停車中の先行 トラックに追突した。先行2台を含む計3台の玉突事故。追突の衝 撃で被災者のトラックの運転席は大きく損傷し、救出され搬送され るも胸部を強く打ち死亡した。直接追突されたトラックの運転手も 足を負傷し休業した。小雨で路面は濡れていた。被災者のトラック のブレーキ痕あり。	40301	221	17	1～ 9
8	0 ～ 2	土砂崩れに係る復旧工事において、道路の通行止め場所の警備業務 に1人で従事していたところ、走行していたトラックにはねられた もの。後日、多臓器不全により死亡。	170201	221	17	100 ～ 299
8	18 ～ 20	被災者はトラックを運転し、高速道路を荷積先へ向かっていた。途 中、高速自動車道で、走行車線から追越車線へ車線変更を行ったと ころ、タイヤがスリップして中央分離帯へ衝突した。衝突のはずみ でトラックは横転し、横転の勢いで被災者が車外に投げ出された ところに、横転したトラックが滑りながら被災者に接触して停車し た。被災者は救急病院へ搬送されるも死亡した。	40301	221	17	10 ～ 29

8	10 ～ 12	被災者は大型のダンプトラック（最大積載量8トン）を運転して砂利の運搬を行うため、県道（片側1車線）を走行していたところ、左側のガードレールに衝突し、約2メートルの道路脇に転落した。その後、病院に搬送されたが死亡が確認された。	40301	221	17	1～ 9
8	10 ～ 12	赤信号で停車していた大型トラックに被災者運転のトラックが追突し、被災者は胸を強く打ち間もなく死亡した。現場は国道の路上で、片側2車線の直線道路。追突の弾みでさらに前の一般車両2台も絡む玉突き事故となり、被災者以外に一般車両の3名が軽傷を負った。	40301	221	17	1～ 9
7	22 ～ 24	被災者が運転するトレーラーが県道を北上していたところ、右カーブを曲がる途中、進行方向の左側のガードレールに接触した。その後、トレーラー車体は左に傾けたまま橋の欄干に衝突し、欄干を倒して川に転落した。被災者は、転落したトレーラー内で心肺停止状態で発見され、病院に搬送されたが、死亡が確認された。	40301	221	17	10 ～ 29
7	6 ～ 8	被災者がバスを運転して道路を走行中、前方から走行してきた大型トレーラーがセンターラインを超えてきたため、正面衝突した。その後、収容先の病院で死亡した。	40202	221	17	1～ 9
7	14 ～ 16	交差点の横断歩道を自転車で横断中に、左折するトラックに巻き込まれたもの。	130201	221	17	30 ～ 49
7	4 ～ 6	業務のため前日に借り出したレンタカーのトラック（平ボデー）で居所から事業場の事務所に向かっている高速道路上で単独事故を起こして路上に投げ出されていたところ、後続の他車（トラック）に頭部及び胴体をひかれたもの。	30203	221	17	10 ～ 29
7	6 ～ 8	被災者6名は、社用車（ワンボックス車）で事業場を出発し、建設工事現場に向かうため高速自動車道の追い越し車線を走行中、中央分離帯に接触しそうになったため左にハンドルを切った際に横転し、走行車線を走行中の大型トラックに追突された。運転手、他1	30201	221	17	10 ～ 29

		名の計2名が死亡、同乗者4名が重症。				
7	6 ~ 8	被災者6名は、社用車（ワンボックス車）で事業場を出発し、建設工事現場に向かうため高速自動車道の追い越し車線を走行中、中央分離帯に接触しそうになったため左にハンドルを切った際に横転し、走行車線を走行中の大型トラックに追突された。運転手、他1名の計2名が死亡、同乗者4名が重症。	30201	221	17	10 ~ 29
7	10 ~ 12	国道で、走行中のトラックがセンターラインを越えて反対車線の道路脇にある民家に衝突し、トラックを運転していた労働者が体を強く打って死亡した。また、近くを歩いていた通行人に荷が当たって軽いけがをした。	80109	221	17	1~ 9
7	4 ~ 6	被災者が運転する8トントラックが片側1車線の道路を走行中、左カーブを曲がり切れず、対向してきた20トントラックと衝突した。衝突はお互いのトラックの右前方部分で、被災者のトラックは衝突した衝撃で道沿いの崖下に転落し、被災者が川に流されたもの。なお、対向車の20トントラック運転手は、被災者と同じ会社の者である。	40301	221	17	100 ~ 299
6	10 ~ 12	被災者は、堆肥で使用する木くずを運送するため、トラックを運転していたところ、県道で、急カーブを曲がり切れず、ガードレールを突き破って、20メートル下の国道に転落し、死亡したもの。	150102	221	17	1~ 9
6	12 ~ 14	ずい道掘削工事現場の汚泥を積み込んだダンプトラックが、現場から出発し、国道に出るため交差点を左折したところ、交差点でダンプトラックを誘導していた被災者に接触したもの。	170201	221	17	300 ~ 499
6	20 ~ 22	高速道路の追越車線を4tトラックで運転していたところ、前方走行車線を走っていた大型トラックが前方の車線規制に従い、急な追越車線への車線変更をしたために避けることが出来ずに衝突したものの。	11209	221	17	50 ~ 99
	2	国道のランプ付近（上り線 出口分岐から南方向に約300メートル地点）にて、下り車線を北上していた被災者が運転する4tトラッ				1~

5	～ 4	クが対向車線に侵入し、上り車線を南下していた他社の労働者が運転する20tトレーラーと正面衝突したものの。	40301	221	17	9
5	2 ～ 4	国道において、被災者がトレーラーを運転し南進、相手方はトラックを運転し北進していた。相手方のトラックが中央線を越え、両者正面衝突となったものの。	40301	221	17	～ 29
5	4 ～ 6	被災者は3tトラックを運転し、コンビニエンスストアへ商品を配達後、別のコンビニエンスストアへ向かうため、県道を走行中、対向車線の乗用車と正面衝突した。	40301	221	17	～ 49
5	12 ～ 14	事業場に荷物を運送した後、帰社する為に4tトラックを運転して高速自動車道を走行していたところ、なんらかの原因で乗用車と衝突事故を発生させたことから、左側の路側帯に停車して被災者が車外で警察の到着を待っていたところ、後方から走行してきた大型トラックが突っ込んできたことにより、大型トラックに挟まれたものの。	40301	221	17	10 ～ 29
5	12 ～ 14	工事現場間の移動のため軽貨物自動車でも国道を運転中、トンネル内で対向車がガードレールに衝突し、その反動でトラック荷台部分がセンターラインを越え、被災者が運転する軽貨物自動車の運転席に衝突し、被災したものの。なお、対向車の運転手も足を骨折する重傷を負った。	30301	221	17	1～ 9
5	16 ～ 18	被災者が運転するトラックが昼過ぎごろ出発し、高速自動車道を走行中、夕方に事故現場で工事渋滞のため追い越し車線で停車中のトラックに気付くのが遅れ、左にハンドルを切ったが左後部に追突し、更に前方のトラックに玉突き衝突した。被災者の運転するトラックは走行車線側に飛び出しコントロールを失い、中央分離帯に激突して大破した。	40301	221	17	30 ～ 49
5	8 ～	国道で、直進中のトラックがダンプカーに追突し、トラックを運転していた労働者が死亡した。	40301	221	17	10 ～

	10								29
5	8 ~ 10	製品（溶接機の部品）を取引先事業場に配送するため、工場から2 tトラックを運転して取引先事業場に向かっていたところ、何らかの理由で国道左側に駐車して車外に出ようとした際に、2台前方に駐車していた乗用車AがUターンを開始して反対側車線に出たところへ、反対側車線を走行してきた乗用車Bと衝突して、その反動で走行してきた乗用車Bと2 tトラックの間に挟まれたもの。	11203	221	17				1~ 9
4	22 ~ 24	国道において、被災者が3トントラックを運転し南進、相手方はトレーラーを運転し北進していた。交差点において被災者が右折したところ、直進してきた相手方のトレーラーと衝突した。衝突後、被災者が乗っていた3トントラックは中央分離帯を越えてスポーツジム駐車場に面した路面まで飛ばされ、トレーラーは交差点の北西に面したガソリンスタンドに突っ込んだ。	40301	221	17				50 ~ 99
4	2 ~ 4	被災者が大型トラックを運転して走行中、前を走行していた大型トラックとその前方のレッカー車が衝突し、そこに最後方を走行していた被災者の大型トラックが追突したもの。	40301	221	17				10 ~ 29
4	20 ~ 22	被災者は、8 tトラックを自ら運転して、国道を北進していたところ、緩やかな左カーブに差し掛かった際に対向車線に大きくはみ出し、合流路の手前約50 m付近で対向車線を走行してきた24 tトラックと正面衝突し、出血性ショックにより死亡した。対向車の運転手（就労中）は、左手首を骨折する負傷を負ったもの。	40301	221	17				30 ~ 49
4	20 ~ 22	トラック（中型車）で工場まで荷物を運搬する途中、県道の下りで左カーブを曲がり切れずに反対車線のガードレールを突き破り、約5 mの林にトラックが転落し、トラックを運転していた被災者が脳挫傷で死亡したもの。	40301	221	17				50 ~ 99
4	12 ~	被災者が運転する4 t コンテナ車が産業廃棄物を収集するため客先に向かっている途中、信号待ちで停車していた車列（6台）に追突した。被災者は意識不明で救急搬送され病院で死亡が確認された。	150102	221	17				10 ~

	14	現場は一方通行の1車線。					29
3	6 ～ 8	消費者向けにLPガスを供給するため、高速自動車道を西へ走行中、急ハンドルを切ったことにより、車両がバランスを崩し、ガードレール、防音壁に接触、車体左面を下に横転したもの。	40301	221	17		10 ～ 29
3	20 ～ 22	被災者は、14tの荷（1箱10kg×1400箱）を最大積載量18.6tのトラックに積み込み、走行していた。同日午後に県道を走行している際に、緩やかなカーブでトラックは横転し、そのまま路外に逸脱し、トラックを運転していた被災者が死亡した。	40301	221	17		1～ 9
3	6 ～ 8	被災者2名が2tトラックに乗り、納品先へ向かうため、高速自動車道インターチェンジ付近を走行していた。前方のトラックを追い越し車線から追い越し、左車線へと戻る際にハイドロプレーニング現象が起こり、ハンドル操作が利かず左外壁へ衝突し、助手席に乗っていた被災者が死亡した。なお、事故発生時、強い雨が降っていた。	80101	221	17		10 ～ 29
3	20 ～ 22	高速自動車道をトラックで走行中、車両を追越車線から走行車線に戻した際、左方に寄せすぎ壁側に衝突し、のり面に乗り上げ横転した。横転後シートベルトに首が引っ掛かり窒息し死亡した。	40301	221	17		30 ～ 49
3	14 ～ 16	県道沿いの斜面補強工事のため一般車両の通行止めを行っていた道路において、通行止めの解除を行った後、被災者は交通誘導を行っていた。最初にライトバンが通過した後、後続にミキサー車が被災者の近くを通過しようとした際、被災者が後ろ向きのままバランスを崩して約7.7メートル下の河川敷に墜落したもの。	170201	221	17		1～ 9
3	14 ～ 16	被災者は、軽トラックに単独乗車して、第二工場から第一工場へ戻る途中、本線道路から逸脱して用水路に転落し、搬送先の病院で死亡した。	40301	221	17		100 ～ 299
2	4 ～	新聞配達業務を終え、原動機付自転車で国道に出ようとしたところ、国道を走行していた普通貨物自動車と衝突し、死亡した。	80205	221	17		10 ～

	6						29
2	2 ～ 4	コンクリート2次製品の荷物を運搬中、単独事故により反対車線側のブロック塀に激突した。	40302	221	17		1～ 9
2	4 ～ 6	早朝、宅配便のセンターAからセンターBへ向かうため国道をトレーラーで走行中、国道と側道の間にある分離帯に衝突したものの。救急搬送され、当時は意識があったものの、数日後に症状が悪化し、外傷性大動脈解離により死亡した。	40301	221	17		10 ～ 29
2	0 ～ 2	被災者がタンクローリーを運転し、国道を走行していたところ、トンネルを通過した直後に対向車線を走行していたトラックと正面から衝突して被災した。	40301	221	17		10 ～ 29
1	8 ～ 10	被災者は、工事現場の駐車場から道路の反対側にある現場事務所に向かうため、国道を横断中、軽トラックにはねられ死亡した。（被災者は、事務所に出勤後、車で現場に移動。）	170201	221	17		30 ～ 49
1	18 ～ 20	4 tトラックに乗車し、国道を走行していたところ、何らかの理由により、急ハンドルを切って、対向車線を超え、電柱に衝突したものの。相手はなく、単独の事故である。	40301	221	17		10 ～ 29
1	6 ～ 8	被災者は、自宅から直接会社の資材置場に行き、当日廃棄物の運搬に使用する2 t ダンプ車と、自身が乗ってきた車を入れ替えようとしていた。ダンプ車を資材置場出入口前の市道（約7.9度の下り坂）に停車し、原動機を掛けたままダンプ車から降りたところ、ダンプ車が動き出し、被災者はそれを止めようとしたが、ダンプ車の左側前輪に牽かれた。	30209	221	17		1～ 9
1	4 ～ 6	年度契約工事である高速道路の保全管理工事において、当該工事に係る作業日210日目に2次下請所属の被災者はI T Vカメラ及び可変式速度規制標識補修工事作業をインター入路合流部付近で行っていたところ、規制内に侵入した一般通行車両である2 tトラックに追突され死亡した。	30301	221	17		1～ 9

1	4 ～ 6	市道交差点で被災者が運転する大型トレーラーが対向車線側の歩行者用信号柱に激突・横転したもの。被災者は胸等を強く打ち、搬送先の病院で死亡した。（単独事故）	40301	221	17	1～ 9
1	14 ～ 16	トラックによる製品配送に従事する被災者が、傾斜が8度ある工場のシャッター入口付近に積載荷重3 tの平ボディトラックを止め、製品積込を行っていた。無人のトラックが前方に動き出し、町道に出て塀に突き当たって止まった（逸走距離4.6 m）が、その右前輪に巻き込まれていたもの。被災の瞬間の目撃者はいないが、動き出したトラックを前方から抑えようと試みて失敗したと推測される。	80109	221	17	1～ 9

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to https://www.jisha.or.jp/international/topics/202210_38.html